

福者 聖バルトロマイのアンナ (6月7日記念日)

アンナは1549年10月1日にスペインのトレド近くで生まれ、1570年11月2日にアヴィラのサン・ホセ修道院に入会しますが、禁域修道女として受け入れられるのではなく、白いベールの修道女、いわゆる助修女として入会し、1572年8月15日に誓願を宣立します。1574年からは、ほとんどイエスの聖テレサの創立の旅に同行し、1577年からは、アンナはテレサの看護係り兼口述筆記者の役割を持つこととなります。1582年10月4日のテレサの最後を看取るのも、彼女でした。

イエスのテレサ(テレジア)が帰天したのち、アンナはフランスのパリに創立した跣足カルメル会女子修道院の援助のために旅立ちます(1604年)。次の年に黒いベールを受け取り禁域生活が始まりますが、ポントイセの修道院創立(1605年)と共に修道院長の役職を受け持ち、パリの修道院長に任命された後、1608年にはトゥールズの創立と院長職に任命されます。

その後、枢機卿ベルジェとスペインのカルメリットの間で困難なことが生じ、アンナはフラウデス地方(今のベルギー)へ移り、1612年10月29日に同国のアムベレスに行きます。アンナはここに跣足カルメル会女子修道院を創立し、修道院長として1626年6月7日に聖性の香りと共に亡くなりました。

アンナは、イエスのテレサ(テレジア)の列福(1614)と列聖(1622)に立ち会った証人でもあります。彼女自身も教皇ベネディクト14世

に列福されました（1917年5月6日）。それにもかかわらず、アンナへのテレサの書面が我々に伝わっていません。あえてテレサがアンナを紹介している文面は以下のところにでてきます。

1. 「修道女は、私も入れて、5人、それにもうひとり、だいぶまえからいつも私を離れない助修女の姉妹もいっしょでした。この姉妹は、ほんとうに神の偉大なはしためであるうえに、たいへん思慮ぶかいので、ほかの歌隊修女の人たちよりも、もっと私の助けになります」（創立史 29:10）。
2. 「私の字句についていつ書くことができたのか私にはわかりません。ただ、秘書がこのように書いたのです。わたしのものを彼女に託すことができました」（1580年10月25日付、聖ヨセフのマリアに宛てた手紙）。

この謙遜なアンナによって、ヨーロッパにイエスの聖テレサ（テレジア）の名声広がったことは確かです。また、スペインとフランス、そしてベルギーのテレジアン・カルメルの基礎となる文書も残したことは、後世のカルメリットにとっても貴重な資料となっています。

<参考文献>

ÁLVAREZ Tomás (Dir.), *Diccionario de Santa Teresa*, Ed. Monte Carmelo, Burgos 2006, pp696-697

『創立史』東京女子カルメル会訳、ドン・ボスコ社、1962年。

松田浩一 神父 カルメル会士